

技術懇談会が開催された

9月15日(金)16時30分から組合事務所で青木博文横浜国大名誉教授を囲んで役員との技術懇談会が開催された。建築鉄骨構造技術支援協会が10月13日に開催する「鉄骨技術フォーラム2017」で設計側と違う考えがあった時に活用できるように事例集を作成する目的で鉄骨製作上の問題点を討議するため当組合からも質問項目を提案したが、そのうち9項目が採用されることになった。

正式回答はフォーラム当日となるが、採用される項目のうち、必要以上に突合せ溶接を使う設計への対応、製作途中での変更が多いのでその対策、現場作業上不都合のためアンカーフレームの変更が設計変更となるかなどについて青木先生からコメントがあった。その後地下の志摩において恒例となった先生を囲んでの懇親会が開かれた。

役員会だより

技術懇談会に先立ち開催された役員会では、今後の研修事業として、合同支部会では新技術3点の動向、新年会での新春講演会は例年通り日本経済見通し、3月にはJASS6改定に伴う基準マニュアル説明会を実施する予定となった。



Mグレード部会が開催

9月8日(金)15時から組合事務所で開催された。神奈川のMの実勢単価を調査することの提案があり、神奈川のファブの特性から見てどう設問を作るかなど話し合った。市況情報交換では手持ちは年内一杯は抱えていて来年分は話の段階。鉄骨工事は1件100トン以上を扱うのは少なく、大体が50トン前後、単価的には20万~24万、耐震は30万超、単価は昨年・



一昨年より下落傾向にあるなどの意見が大勢を占めた。仕事が決まっても着手の時点で延ばされることもあるなどの意見もあった。

Fabを訪ねて No. 50

社名通り「技術を持ち、建てる」を心掛け、更なる品質向上を目指す。

有限会社平技建

相模原市中央区田名2083-1

代表者 古郡直彦 Tel 042(763)5568 fax 042(763)5526
Eメール odaira-cad@jcom.home.ne.jp

相模原市中央区田名にある県央湘南支部に所属する平技建の現会長の小平吉秋氏は福島県出身で、鉄骨を扱う建設会社に勤務されていたが昭和63年に独立し、個人で現場鍛冶をしながら金物製作を手掛けてこられた。その後現



・在地に工場を建てて徐々に仕事の幅を広げていき、平成4年からは(有)小平鋼業として鉄骨や金物を本格的に製作してこられた。14年には現社名に変更している。現在は工場での製作は鉄骨と金物は半々で、現場鍛冶工事も2割ほど手掛けている。人数が少なく、現場工事となると工場製作がストップするのが弱点のようだ。現在近くに第二工場を構えているが休止している。現社長は会長のご子息で12年に入社し、27



6月に代表者となっている。現在はご子息二人が従事しており、社長は「さらなる社業の発展に専心努力していく」と抱負を語られた。21年に組合員となったが今回再加入となり、当面の目標は、Rグレードの申請基準は満たしており「グレードを取得する必要性も感じているので頑張っていきたい」と意欲を示された。

データファイル

創業	昭和63年 4月 日
法人設立	平成 4年 2月 日
資本金	3 0 0 万円
従業員数	4 名
加工能力	年 4 0 0 トン
工場敷地	6 0 4 m ²
工場面積	3 5 5 m ²
事業内容	建築鉄骨工事 建築金物工事
主取引先	久野建設、正建、 サーティフォーほか
主な実績	麻溝台リサイクルスクエア、二幸エンジニアリング上野原工場、山京建設社屋新築工事ほか